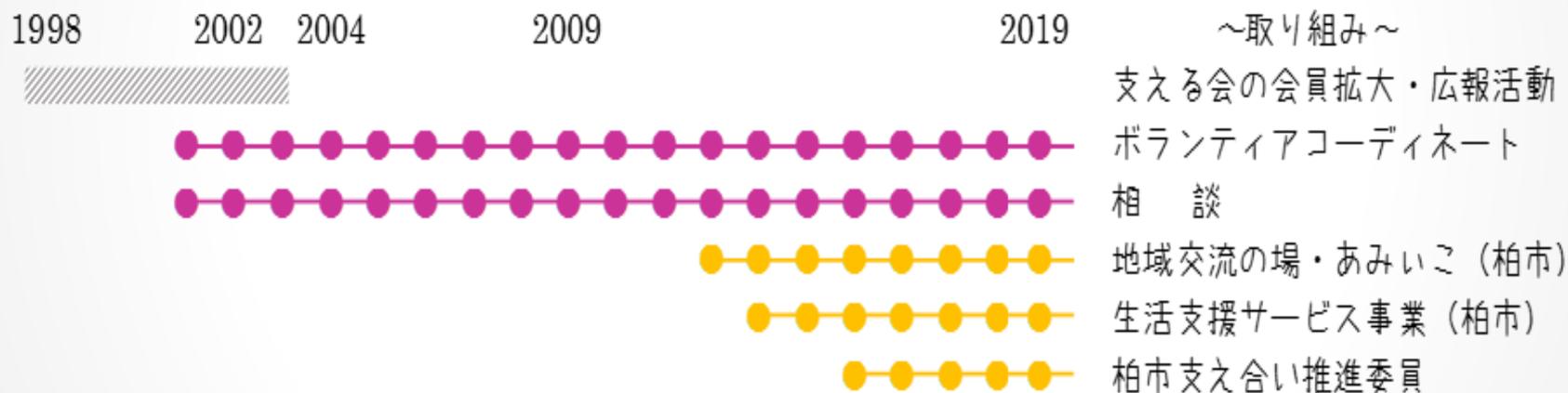


* 柏エリア *

◇ 柏センター ◇

柏センター事業年表



～取り組み～

支える会の会員拡大・広報活動

ボランティアコーディネート

相談

地域交流の場・あみいこ（柏市）

生活支援サービス事業（柏市）

柏市支え合い推進委員

◇柏センター◇

柏センターの主な事業

- ★ボランティアコーディネート
- ★地域コーディネーター
- ★安心システム
- ★地域交流の場《あみいこ》
- ★生活支援サービス事業



VAIC 2005年～

◇ 柏センター ◇

社会参加支援 ボランティアコーディネーター

◇ 柏センター ◇

傾聴ボランティア

- ◆ 傾聴ボランティアとは？ 否定せず相手の話を聞くこと。
- ◆ 目的 アメリカで発祥した傾聴ボランティア活動を千葉でも普及させる。
- ◆ 経緯 2005年 6月 講演会「傾聴ボランティアのススメ」参加91名
傾聴ボランティア講座（9月柏市、1月野田市）により
柏市と野田市に傾聴ボランティアグループが発足。
2010年10月 講演会「傾聴ボランティアのススメ」参加87名
生活クラブ風の村光ヶ丘入居者対象の傾聴グループが発足。
地域の高齢者施設に訪問、傾聴活動が始まり、現在に至る。

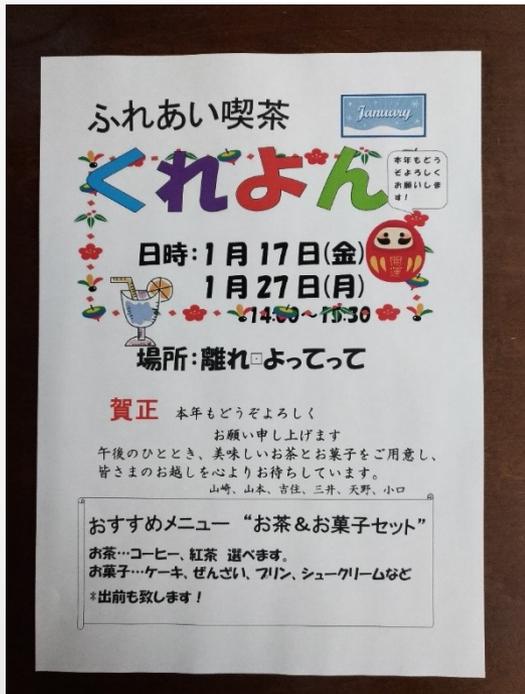
◇ 柏センター ◇

ふれあい喫茶 くれよん

◆開 始：2010年7月16日

◆目 的：施設入居者同士やボランティアとの交流の場、
傾聴等のボランティア活動の入り口とする。

◆活動内容：柏センターがある風の村光ヶ丘の入居者に対し喫茶店を提供する。（美味しいものを食べながら憩い豊かな時間を過ごす。）





ふれあい喫茶くれよん



VAIC-CCI 2017年～

◇柏センター◇

地域コーディネーター

人と人とをつなぎ、交流や活動を生み出す支援をしています。

2017年～

地域コーディネーター

- ◆ 目的 地域のだれもが、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けていくことができるように、多様な出会いの場をつくり、人と人とをつないで、交流や活動を生み出すことで孤立のない社会をめざす。
- ◆ 内容 総合相談や社会参加支援、地域交流企画のコーディネート。
- ◆ 経緯
法人では、各センターを地域包括システムの拠点と位置づけ事業展開をしてきました。
2017年 VAIC-CCI第3次中期計画に基づき、八街・柏・千葉センターに地域コーディネーターを配置しました。
安心システムをはじめ、地域資源や制度へつなぎ、コーディネート機能を強め、地域づくりのリーダーシップを発揮しています。

※「生活クラブ安心システム」とは

「住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けていくことができるよう、地域の中で支えるきるための活動と担い手づくりに取り組み、地域包括ケアの実現に寄与するためのものです。

「街の縁側」分野横断の人材育成と相談・支援の機能を持ち、だれもが安心して訪れることができる居場所づくりにも取り組んでいます。

安心システムには、地域住民を対象にした《安心支援システム》と、介護保険サービスなどの利用契約を結んだ要介護者を対象とした《安心ケアシステム》の2つがあります。

《安心支援システム》では、事業所はその地域の人々の日常生活圏全体に責任を持ち、孤立しがちな高齢者、障がい者、生活困窮者なども地域社会の一員として、安心して生活を続けられるように支援します。

《安心ケアシステム》では、事業所の利用者の在宅生活をできる限り支え、制度外のケアを含めて最期まで地域社会での生活を続けられるように「支えきる」ことをめざします。

地域コーディネーターが関わった地域の「みのり」

地域コーディネーターが支援し、多くの方の力でたくさんの実をつけた様子を「りんごの樹」で表現しました。

その実りは少しずつ増えていっています。

柏市では、市と社協と支えあい推進員が協働して地域の支えあいづくりを進めています。

光ヶ丘地域では、当法人をはじめ6つのたすけあい団体と、常設型の居場所が1つ、週1回の居場所が1つ（光ヶ丘拠点安心システムの「よってって」）で活動しています。そのうち5団体をいっしょに立ち上げてきました。

たすけあい団体も、居場所でも、地域の方々を見守り、見えて来た困りごとに懸命に対応し、孤立している方々が安心して暮らせる地域づくりが少しずつ進んでいます。



地域コーディネーターが関わる事業



事業それぞれの企画



活動の成果



今後の展望、目指すこと

街の縁側「よってって」 （安心システム事業）

週1回、近隣のボランティアが作る温かい昼食を取りながら、参加者が得意な「ハガキ絵」や「手芸」などに取り組みました。楽しくおしゃべりしながら、変わったことはない？と見守り合う場にもなっています。



「一人暮らしが出来なくなったら、ここに入居し、よってってのボランティアも続けたい」
よってってではがき絵を教えている男性(89歳)

「ずうっとこの様子を見てきて、ここならこの先自分が思っているように暮らしていけると思った」と話され、病気への対応や親族についての相談もありました。

柏市地域支えあい推進員（柏市生活支援コーディネーター）

柏市の光ヶ丘地域（約1万世帯）に配置されていて、地域住民が主体のたすけあいサービスや居場所の創出と継続を支援し、地域で、高齢者・障害者・子どもも自分らしく暮らせるよう「支え上手、支えられ上手」を増やす活動をしています。

立ち上げ支援をした「たすけあい」では一人暮らしの利用者の体調が急変した時に、協力員（ボランティア）が交代で一晩中見守りをして説得し、入院してもらうことができたそうです。

「日常の関わりで築いてきた信頼で、問題が解決できました。たすけあいをやっていたよかった！」

2019年2月に開催された「ささえあいの集い」には150余名が参加「高齢社会の時代にあってとても有意義でした」



◇ 柏センター ◇

地域交流の場 ＊ あみいこ

地域交流・担い手創出を目的とした各種講座「あみいこ」

- ◆ 目的 この教室をきっかけに参加した人たちが顔見知りになることで、地域交流を活発にし、社会参加を促す。
- ◆ 内容 地域の人が交流する場としてさまざまな教室や講座を開催。地域活動の担い手創出を進めている。
- ◆ 経緯 2012年 風の村光が丘（柏センター）で開始。
2016年 柏市介護保険総合事業「通いの場」として補助金を受ける。（柏）

居場所事業「あみいこ」

ラベンダーステックづくり教室

柏センター



◇ 柏センター ◇

生活支援サービス事業

生活支援サービス事業

- ◆ 目的 住み慣れた地域でその人らしい暮らしができるよう
公的制度ではまかなえない有償の生活支援サービスを提供する。
- ◆ 内容 家事支援・掃除支援・見守りやお話し相手・通院同行や散歩の付き添い
ペットのお世話など介護保険では出来ない事をお手伝いする。
- ◆ 経緯 2013年 風の村からの助成（3ヶ年）を受けて、ケア者養成研修・広
報活動などを実施し、柏市光ヶ丘地区で生活支援有償サービス
事業を開始。
2016年 介護保険制度改正に伴い、柏市では生活支援体制整備事業と
して、前年度サービス提供時間に応じて、たすけあい支え合い
生活支援有償サービス団体への助成金を受ける。高齢社会での
需要増が予想され、ケア者養成、事業の継続と利用
拡大につなげ現在に至る。

デイサービス以外の日に掃除と両親の
昼食を作ってもらえて助かっています。

2人目を出産して、家事が大変でしたが、掃除や
食事を作ってもらえてとても助かっています。

介護保険制度などではまかなえない
生活支援サービスを提供します！



生活支援 有償サービス

私たちは 住み慣れた地域で その人らしい暮らしができるよう 応援します！

◇ 柏センター ◇

柏市地域支えあい推進員（1名）

（第二層生活支援コーディネーター）

- ◆ 目的
 - ・ 制度：高齢者の増加、財源不足、担い手不足を背景に、地域住民のたすけあいによる地域づくりを支援する。
 - ・ 法人：独自にすすめてきた地域づくり・担い手創出が、この役割の受託により市と連携し、制度の一環として実施できるようになった。
- ◆ 内容
 - 柏市：市内に20名配置されている第2層。
名称は「柏市地域支えあい推進員」
光ヶ丘地区を担当。
- ◆ 経緯
 - 柏市：2015年度第1層を担う社会福祉協議会より
柏センター地域コーディネーター光ヶ丘地区の推進員を委嘱。

これからの**10**年へ つ・な・ぐ

つなぐつなぐ
10周年